

報告

## リーディングマラソン室における新たな試み

A New Approach to the Reading Marathon Room

小川春美<sup>\*1</sup>, 熊本早苗<sup>\*2</sup>, エリザベス・マーサル<sup>\*3</sup>

Harumi OGAWA, Sanae KUMAMOTO and Elizabeth MARSALL

**Keywords:** *reading marathon, motivation, collaboration*

リーディングマラソン, 動機, コラボレーション

### はじめに

盛岡短期大学部国際文化学科では数年前から学生の英語力向上を促進させる試みの一つとして、Reading Marathon (以下、リーディングマラソンと表記) を実施している。外国語学習における多読の効果は、これまでに多くの研究者によって検証されている。

昨年度までの数年間において、リーディングマラソン・プログラムの中で行ってきたことは、主に次のようなものである。

- 1 英語表現を担当する教員が授業の中で活用していた。
- 2 授業外でもリーディングマラソン室に積極的に行くよう学生たちに促し、TA を活用して、教材の貸し出し、および返却にかかわる業務に従事してもらった。
- 3 卒業時に一番多くの本をリーディングマラソン室から借りた学生を表彰していた。

### 今年行ったあらたな試み

- 1 「顔」の見えるリーディングマラソン室へ一新： 今年新しく採用したアルバイト生（本学総合政策学部4年生）を新入生全員に紹介した。そのアルバイト生に自己紹介カードを作ってもらい、リーディングマラソン室の存在とプログラムを新入生全員に周知徹底した。
- 2 蔵書内容の充実： 数年前に購入した本でかなり痛んだものがあれば、紛失されて本数が減っていたこともあり、今年新しく本を約80冊購入。最近映画で放映された作品も教材になっていたため、純文学作品のみならず、いろいろなジャンルや伝記も取り揃えた。
- 3 分野横断的な教員の連携： 今まで英語表現を担当していた教員が中心になってリーディングマラソンへの学生の参加を促していたが、西洋系専門科目や多文化共生論、現代女性論を担当する教員も、授業の中で、学生にリーディングマラソンに参加するよう促した。多角的方面から学生にリーディングマラソンへの参加を奨励することができた。学科全体として本プログラムを重視する姿勢を示した。

- 4 教員による推薦書で啓蒙活動：「今月のお勧め作品」を毎月ポスターにしてリーディングマラソン室に貼った。そこには、英語以外の科目を担当している教員からのお勧め作品も提示した。例えば、専門科目において、教員が教えている内容と連動するようにポスター内容を工夫したことで、授業内外における発展学習を促進した。時には難度の高い作品も含め、ポスター紹介することで、短大生が知っておくべき作品や作家、歴史的出来事に関する内容について、啓蒙活動を兼ねることができた。
- 5 大学広報活動との連携： 6月に実施されたオープンキャンパスに合わせて、リーディングマラソン室のディスプレイを変え、在学生が高校生を案内した。大学見学者にリーディングマラソン室を案内することで、在学生はより主体的に内容を理解し、熱心に取り組むようになった。
- 6 全員参加型のリーディングマラソンへ： 学生が自主的に思考し、プログラムに積極的に参加することを目指し、学生対象に「リーディングマラソンをもっとよくしよう！」という提案書を募集した。貸し出し数が若干減り始めた時期において学生からアイデアを募ることにより、学生の関心が戻り、リーディングマラソンが習慣化していった。
- 7 学生のアイデアで返却遅延問題の解決： 学生からのアイデアを採用し、返却ボックスを設置した。履修時間数が多い短大生にとって、返却時間が長くなったことは、大いなる利便性をもたらし、返却遅延解決に効果的であった。
- 8 ネイティブの Conversation Partner を活用： カナダ出身の留学生を Conversation Partner としてリーディングマラソンの実施日時に常駐してもらうことで、学生は同年代のネイティブと英会話を実践することが可能になった。本の貸出返却という実務的なことから、文化的な会話まで、より幅広く、学生の興味関心に沿うように充実化した。
- 9 ECC との連携： 短大生が自主的に始めた英語サークルECC (English Conversation Club) と連携し、季節行事を同時開催することで、英語活動や留学情報の交換が活性化した。
- 10 貸出状況のデータ化と個人指導への応用： 毎週末と月末に貸し出し簿を確認しデータ化することによって、貸出冊

\*1 \*2 国際文化学科 \*3 リーディングマラソン室アシスタント・Conversation Partner

数や人気の本について教員が把握できた。専門科目に関する貸出については、学生個々人の興味関心を把握できたことで、課題レポート執筆の際の個別指導に応用できた。

上記の中で5や8に関してのアイディアは、著者が外国語教育で名高い神田外語大学に現地調査に行った際に得たものである。外国人の conversation partner を活用したり、部屋のレイアウトを変えることによって、今まで授業の一部として強制されなければリーディングマラソン室に行かなかった学生が、気軽に立ち寄ることの出来る部屋となったのではないだろうか。上記の試みによって得られたものを本の貸出率と学生を対象に行ったアンケート結果とともに考察してみた。

### アンケート集計結果および考察

N-48

	a	b	c	d	x
1 「今月のお勧め作品」はよい企画だ	12	29	2	0	5
2 季節やイベントごとにリーディングマラソン室のディスプレイを変えるのはよい	31	15	2	0	0
3 学生のアイディアを採用し、返却ボックスを設置したのはよい	34	12	0	0	2
4 Conversation Partner (今期は Liz) がいるのはよい	33	12	0	0	3

- a. 強くそう思う    b. そう思う    c. そう思わない  
d. 全く思わない    x. わからない

去年と比べて、貸し出し率が3倍になった。(5月～7月末までの累計貸出冊数は344冊であった。)最近学生の文字離れがあらゆる場面で指摘されているが、この試みによっていくらか学生の読書への関心をひきつけることが出来たのではないかと推測される。

学生を対象としたアンケート結果も概ね肯定的な数値でcやxを選んだのはリーディングマラソン室に行かない学生たちであった。

項目1に関してのコメントで多かったのは、数ある本の中から何を選べば以下分からないときの参考になったというものが多かった。

項目2に関して寄せられた学生のコメントから分かることは、部屋のディスプレイを変えることで、学生がリーディングマラソン室を訪れやすくなり、それが本を借りる動機づけにもつながったということである。オープンキャンパスなどの機会にもその部屋を見学させるということも出来た。

項目3に関して寄せられたコメントで多かったのは、返却が

いつでも出来ることで便利だったというものであった。また、この返却ボックスを設けたことにより、滞納率や、本の紛失などが大幅に減った。

項目4に関しては多くの学生が好意的なコメントを書いた。「同年代のネイティブと話せるのは貴重な機会である」ということを多くの学生が認識し、学生の動機づけに大きく寄与していたことは明らかである。

英語以外の科目を教える教員の協力があってこそ行われた今年度初の試みであったが、学生の学習においてさまざまなメリットがあった。ネイティブの conversation partner を見つけられるかなどの課題はあるが、来年度以降も継続していきたい。

### Conversation Partner から

As a member of the Reading Marathon Program, I had the unique and wonderful opportunity to connect with a number of students. The students who visited me in the Reading Marathon Room were enthusiastic and eager to use English and it was a pleasure to converse with them concerning a number of topics. At Halloween and Christmas, several of the students, along with myself, planned festive events designed to allow the students to interact with one another in the context of using English – and to have fun while doing so! Besides providing an opportunity for students to speak freely with a native English speaker, the Reading Marathon Room also contains a myriad of English publications, each at different levels of English comprehension so as to allow the students to challenge their reading skills and find material appropriate to their current level. A key part of my position involved keeping records of which books were borrowed by whom. As a result, I was able to see the students choosing progressively higher level reading material, an encouraging fact as this implied their increasing proficiency of the English language. During my time as a member of the Reading Marathon Program, I was constantly impressed by the determination and passion with which these students applied themselves to their study of the English language. Due to the work of the Reading Marathon Program at Iwate Prefectural University, I was able to experience first-hand the students' development and acquisition of language skills and also made valuable, lasting friendships. It was a pleasure to be a part of the program and I look forward seeing its continued success in the future!

私はマーサル・リズと申します。リーディングマラソン室で4ヶ月間働きました。その時、英語に興味を持ついろいろな学生に会いました。学生といっしょに英語で話して、英語の本を貸し出しました。みんなでいっしょに英語を使うために、ハロウィーンとクリスマスにパーティーをしました。楽しかったで

す！毎回、学生の英語の努力を見て、感動いたしました。リーディングマラソンのおかげで学生の英語のレベルがあがったのはうれしいです。友達が出来たので、今でも学生とフェイスブックやメールでやりとりしています。学生は英語で何でも話すことができたり、英語の本も読むことができたりするので、リーディングマラソン・プログラムは英語や文化の勉強のために大事だと思います。この経験を与えていただき、どうもありがとうございました！

写真 1: リーディングマラソン室のドア

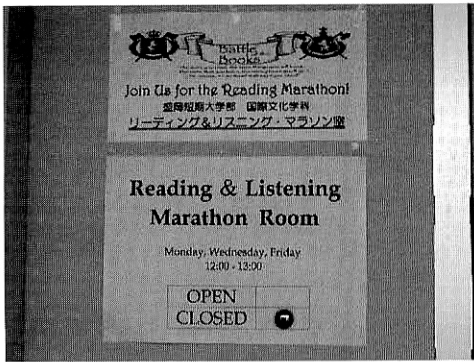


写真 4: 部屋のディスプレイ



写真 2: 新着書のレイアウト



写真 5: Conversation partner



写真 3: 「今月のお勧め作品」の例

